

令和8年度 学校経営計画書

学校番号	46	学校名	静岡県立藤枝東高等学校 定時制の課程	校長名	森谷 幹子
------	----	-----	-----------------------	-----	-------

1 スクール・ミッション

志太榛原地区の定時制高校として生徒一人一人の個性や理解度に応じた「わかる授業」及び地域に根ざした教育活動を通して、社会の一員として自信と自覚が持てる自立した人間の育成を目指す。

2 目指す学校像

(1) スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
① 自己肯定感を高め、自立し、逞しく生きる力を育成 ② 基本的な生活習慣を確立し、基礎学力の向上を図る。 ③ 望ましい勤労観や職業観を養い、社会の一員として自信と自覚が持てる人間を育成	① 働きながら学ぶことができる、普通科の夜間定時制高校 ② 在学期間は4年間であるが、併修制度利用により3年間で卒業も可能 ③ 生徒一人一人の理解度に応じた「わかる授業」を推進し、きめ細やかな指導を実現 ④ 地域で活躍する多様な人材と関わる機会を設定 ⑤ 生徒一人一人が主体的に取り組む学校行事を計画し、達成感や充実感を高める。	① 基礎学力を身に付けようとする意欲を持った生徒 ② 学校生活を大切にし、前向きに活動しようとする生徒 ③ 自己実現の意欲があり、将来の目標に向かって努力できる生徒

(2) スクール・ポリシー具現化の柱

ア 基本的な生活習慣の確立と生徒一人一人が、自己肯定感を持って学校生活を送ることができるよう指導する。

イ 生徒一人一人の理解度に応じた「わかる授業」の推進により、基礎学力の一層の定着を図る。

ウ 進路目標の実現に向け、地域の人材等を活用し、望ましい勤労観や職業観を身に付けさせる。

エ 様々な教育活動を通じ、思いやりや優しさ、逞しい心などを涵養し、社会の一員として信頼される人を育てる。

オ 教育環境の整備充実及び安心して安全な学校づくりを進める。

3 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
(1)	基本的な生活習慣の確立と自律心の涵養を図る。	個人面談等を通して生徒の実態を把握し、カウンセリングマインドを持って接することで、自己肯定感を持って前向きな学校生活を送ることができるようにする。 各授業での具体的な方策を通して欠席、遅刻、早退をせず、時間を大切にする意識を育てる。	面接週間以外で面接を実施した教員100% 「相談できる教員がいる」と回答する生徒、保護者75%以上 授業の遅刻・早退数が前年度より減少	教務 生徒 保健

様式第1号

		登下校指導や交通安全教室、原付グッドマナー講習会などを通じて安全意識を高める。	通学時の交通事故0件	
		日常指導や行事を通じ、健康や命の大切さについて考えさせる。また、感染症予防を徹底する。	「保健だより」の発行年5回以上 健康や安全に関する高い意識を持つ生徒75%以上	
(2)	学ぶ意欲を高め、基礎学力等の定着を図る。	生徒一人一人の理解度を把握し発表や質問等を大切にする授業を行う	「授業がわかる」と回答する生徒75%以上	教務 教科
		I C T機器の活用、教材の工夫等により、主体的な取組を促すとともに、授業を大切にする姿勢を高める。	「教材や教え方などが工夫されている」と回答する生徒75%以上	
		校内研修や教科研究会等の機会を有効に活用し、学習評価、授業改善を一層推進する。	年間3回以上の研修会の実施 生徒の学習改善につながる授業改善を行っている教員80%以上	
		基礎学力テスト（漢字、英語等）を定期的実施し、基礎学力の向上を図るとともにI T技術の向上も図る。	基礎学力テストの実施年間3回以上 資格検定へチャレンジする生徒2人以上	
(3)	進路実現に資する望ましい勤労観・職業観を育成する。	進路講演会や進路セミナー、地域人材を活用した行事などを通して、学びと働くことの重要性を再確認させる。	進路行事参加後の振り返りによる肯定的な評価75%以上	教務
		総合的な探究の時間等を活用し、自らの在り方、生き方を考えさせる。	「自分の良いところがわかる」と回答する生徒75%以上	
(4)	多様な人々との協働を通して、社会性（コミュニケーション能力）の向上を図る。	少人数であることを生かした、主体的に取り組めるホームルーム活動や学校行事を考え、生徒会活動の活性化とともに、生徒の参加率を高める。	各行事の参加率80%以上、満足度60%以上 各行事の事前・事後指導の実施100% 「人間関係が良い」と回答する生徒75%以上	生徒
		生活体験発表を通して自己を客観的に見つめるとともに、自分の考え方や思いを伝える力を養う。		
		演劇鑑賞会、お話の会、食事会等の魅力ある行事を企画し、文化・芸術活動に親しむとともに、生徒が積極的に他者と関わるができるよう指導する。		
		個人情報取り扱い、スマートフォン等の使用のあり方を含め、様々な場面で人権教育に取り組む。		

様式第1号

(5)	より良い学習環境の整備充実及び安心安全で生き生きと活動できる学校づくりを推進する。	夜間であることを意識した防災訓練、防災設備の点検・補充、通学路における危険箇所チェックを行う。	防災訓練の実施年間2回 「防災訓練に意欲的参加した」と回答する生徒75%以上	教務 保健 相談 事務
		ゴミの分別、美化活動を推進し、学習環境の整備を心掛けさせる。	使用教室等の美化活動を年間5回以上	
		相談室の整備を含め、効果的な活用と相談体制を確立する。	支援が必要だと判断した生徒への面談の実施、SCへの接続100%	
		情報管理システム及び組織体制の確立を進める。	個人情報の取扱い等に関する不祥事0件	
		無駄のない、適正な予算執行により、施設・設備、備品・消耗品等の整備を確実にを行う。	不備・未実施等0件	
		出席状況の報告、ミニミニ通信の配付等を通して、生徒の学習状況、教育活動の内容等を的確に情報発信する。	出欠報告、ミニミニ通信の発行年6回以上。 「通信などを読んでいる」と回答する保護者75%以上	
		ICT機器や自動採点システムを効果的に活用することで、教員の業務改善を図る。	「業務が改善された」と感じる教員80%以上	

(記入上の留意点)

具体的な重点項目が外部の方にもわかりやすいよう、工夫して記載すること。